

pro

Proceedings 議事録



- 日時 : 平成27年10月28日（火） 9:30～11:30
場所 : 新潟市役所白山浦庁舎 1号棟 2階 教育会議室1
- 出席者 委員 : 中村 恵子 (新潟青陵大学 教授)
福島 實 (新潟市子ども会連絡協議会 会長)
齊藤 裕子 (新潟市教育委員会学校支援課 副参事)
長浜 裕子 (新潟市教育委員会 教育次長)
- 丹治 嘉彦 (新潟大学教育学部芸術環境講座 教授)
逸見 寛 ((株) けんと放送 取締役 放送局長)
池主 透子 (TC-Wave 代表)
長井 亮一 (新潟市文化スポーツ部 部長)
- 欠席者 委員 : 近藤 淳一 (新潟国際友好会館 館長)
菊野 麻子 (フリーアナウンサー)
- 出席者 事務局 : 佐々木 克己 (教育委員会地域教育推進課 課長)
枝並 素子 (教育委員会地域教育推進課 課長補佐)
増田 徹 (教育委員会地域教育推進課 副主査)
中野 力 (文化スポーツ部文化政策課 課長)
鈴木 稔直 (文化スポーツ部文化政策課 課長補佐)
黒川 正憲 (文化スポーツ部文化政策課 主査)
諸橋 真樹 (建築部公共建築第2課 課長補佐)
江部 達哉 (建築部公共建築第2課 主幹)
須貝 允英 (建築部公共建築第2課 副主査)
阿部 康道 (大畑少年センター 所長)
半藤 千枝子 (大畑少年センター 事業担当)
- 出席者 策定支援 : 町田 誠 (本間総合建築 取締役)
- 全体進行 : 枝並 素子 (教育委員会地域教育推進課 課長補佐)
- 傍聴者 : 2名

◆ 議事内容

1. 事務局挨拶

： 佐々木 克己（教育委員会地域教育推進課 課長）

- ・ 前回行われた各部会（国際青少年センター機能と芸術創造ファクトリー機能）では、多くの熱いご意見を頂いた。
本日の委員会では理念や方針について、意見を頂きたい。
全体のスケジュールとしては遅れているが、議事内で今後のスケジュールについて説明を行う。

2. 議事 ※進行は委員長

(1) 施設の整備基本方針（案）について

《資料》国際青少年センター・芸術ファクトリー施設整備基本方針（案） 資料1

・《基本理念》を説明

【（仮称）国際青少年センター】の基本理念説明

： 枝並 素子（教育委員会地域教育推進課 課長補佐）

- ・ 集団活動、様々な体験を行う、コミュニケーション能力や自立心、等々、あらゆる理念を全てを盛り込みすぎと思ったが、広く視野に入れるということであれば、これで良い。（長井委員）
→ 体験活動を通じて育まれるものを取り入れている。
（佐々木 地域教育推進課長）
- ・ 具体的に育まれる内容を提示はしなくてもよく、文面で全てを列挙する必要はないのではないか。（福島委員）
- ・ 表現が「○○させる」など、言い方がきついのではないか。（長井委員）
- ・ 両施設をリンクさせ理念内容に新潟市らしさが欲しい。（福島委員）
→ 今後検討する。（枝並 地域教育推進課長補佐）
- ・ こども創作活動館との差が必要ではないか。具体的に育まれる内容の記載が欲しい。（丹治委員）

【（仮称）芸術創造ファクトリー】の基本理念説明

： 鈴木 稔直（文化スポーツ部文化政策課 課長補佐）

- ・ 「水と土の芸術祭を鑑賞できる場とし、」の意味が通じない。（長井委員）
→ 表現を検討する。（中野 文化政策課長）

- ・国際青少年センターと芸術創造ファクトリーを結びつける理念も欲しい。
(福島委員)
- ・地域と共につくり上げる施設という記載が必要ではないか。(丹治委員)
- ・地域という範囲のディスカッションが必要。(長浜委員)
- ・地域といっても範囲が明確ではない。(中村委員)
- ・二葉中の近隣や町内会の理解と連携が必要。具体的には高齢者が孫と一緒に参加する等が想定される。地域、市民が主役になるようにしてはどうか。(丹治委員)
- ・市としては当建物は全市的な施設と考える。地域という言葉に記載すると限定的な意味合いを帯びてしまい、フレーズとして使用するのはいかがなものか。
(長井委員)
- ・小さい単位(地域)でも主役になれるという位置付けが欲しい。(丹治委員)
- ・複合施設であるので地域に関しては施設全体として理念に入れるべき。(長浜委員)
- ・ボランティア等、地域の力で活性化する旨も欲しい。(福島委員)
- ・「…様々な分野に活用し、」と「…活性化につなげる必要がある。」の間に言葉がないとつながりにくい。(長浜委員)
- ・前後の目的が合っていないので唐突な感じがする。(中村委員)
- ・最後の文章の書き方だと思う。各段落にそれぞれ目的があるので、それをどうするかが問題。(長井委員)
- ・目的にバラバラ感が否めない。(中村委員)
- ・理念を読む限り、よくある『宿泊できる公民館』ができるような印象。
2つの機能が複合化した施設は全国に例を見ないのではないか。国際的でグローバルな視点を育める子どもたちが全国から集まるような施設にならないか。(逸見委員)
- ・独自性、地域性という視点から立地を生かした方針としてはどうか。(池主委員)

・《施設の機能》を説明

《資料》施設整備基本計画案 資料2

《資料》委員意見に対する事務局案 資料1(参考)

【(仮称)国際青少年センター】

： 枝並 素子 (教育委員会地域教育推進課 課長補佐)

【(仮称)芸術創造ファクトリー】

： 鈴木 稔直 (文化スポーツ部文化政策課 課長補佐)

- ・委員意見に対する事務局案(資料1参考)はどのようなものか。(福島委員)
→ 事務局案をまとめたものが施設の機能以下に記載している。
(枝並 地域教育推進課長補佐)
- ・言いまわしは国際青少年センターの(1)において、協同→協働、奉仕→ボランティア
日本の文化→新潟の文化、が良い。複合化した機能説明も必要、先に両施設の合わせた機能説明が良いのでは。(丹治委員)

- ・理念に対して機能があるべき、合致していない部分もあるので整理が必要。
(長浜委員)
- ・国際青少年センターの(2)において、地の利を生かしたプログラムとは何か。
(長井委員)
 - 海や森林に囲まれた自然で行うプログラムであり、交通の便等ではない。
(長浜委員)
- ・国際青少年センターの(3)において、新潟(日本)の文化を伝えることとは、市の子どもたちではなく海外に向けているのか。
→ 国際という視点からは、「外国の方々に」をイメージしている。
(枝並 地域教育推進課長補佐)
- ・日本の文化を再確認することが最終目的に書かれているが、国際交流自体が重要なことだと思う。(福島委員)

・《整備・運営手法》を説明

【(仮称)国際青少年センター】

： 枝並 素子 (教育委員会地域教育推進課 課長補佐)

- ・国際青少年センターではスタート時、正規の職員は5～10名程度を考えているのか。
(福島委員)
 - 未検討である。(枝並 地域教育推進課長補佐)
- ・大畑少年センターでは4～5名で運営している。芸術創造ファクトリーではどの程度の人員が必要か。(福島委員)
 - ディレクターの配置が重要であり、人員はあまりいらなと思う。
(鈴木 文化政策課長補佐)
- ・ディレクターについては、青少年センターでは話題となっていないが、その辺をどう考えるのか。(逸見委員)
 - 国際青少年センターの分科会の意見としては、企画運営を考えるのはディレクターではなく館長や職員をイメージしていた。(長浜委員)
- ・全国の先進事例となるように、ブランドを作っていくのがディレクターではないか。ディレクターが両方の施設を見なければ、建物に両方の機能が入っているだけの施設になる可能性がある。(逸見委員)
- ・ディレクションするということは、職員とのやりとり等、総合的な役割を担う。両機能の施設全体の目配りができる役職が総合ディレクターではないか。責任の所在をはっきりとさせたい。(丹治委員)
- ・館長が全体の最終責任者と考えると案2と思う。(長浜委員)
- ・ディレクターの役割は案1の方が大きいだろうし、案2の場合は館長の役割が大きくなるだろう。(福島委員)
- ・2つの施設が一体となって機能するには、両方を見てコーディネートできる仕組みが良いと思う。(齊藤委員)

- ・芸術創造ファクトリーの(1)のところだが、提供。でとめて、それ以下はかつこ書きにした方が良い。(池主委員)
- ・事務局案では、芸術創造ファクトリーでも和室が必要とあるが、どのような必要性からか。(長浜委員)
 - ここに来館する方が、お茶の文化を経験できる場の提供として意見がでている。(鈴木 文化政策課長補佐)
 - 特別な芸術ということではなく、外国人のアーティストがインスピレーションを得られる場としても良いのではないか。(池主委員)

(2) 施設レイアウト(案)について

《資料》施設整備基本計画案 資料2

： 枝並 素子 (教育委員会地域教育推進課 課長補佐)

- ・1階と4階に芸術と複合施設をプランした意図はなにか。芸術創造ファクトリーを24時間利用とした場合は、セキュリティが難しいのではないか。(長浜委員)
 - 4階の眺望を国際青少年センター機能のみで独占しないように、また体育館1階に計画している浴室との動線も考慮した。
 - セキュリティに関しては、1階のみカード管理による24時間利用を検討している。(枝並 地域教育推進課長補佐)
- ・芸術作品を製作時には音が出る。また、水土アーカイブは作品保存上、光が入らない方が良い。またバリアフリーも考慮すれば1階と2階が芸術ファクトリーが良いと考える。(丹治委員)
- ・芸術作品の製作時間は、水と土の芸術祭ではどの様に設定されていたのか。水土ディレクター経験から丹治委員に確認したい。(鈴木 文化政策課長補佐)
 - 夕方6時までを製作期間としていたが、開期直前は22時くらいまで行っていた。(丹治委員)
- ・2階が青少年センター部の浴室となっているがスムーズに利用できるか。(福島委員)
 - 建築家と調整したい。(鈴木 文化政策課長補佐)
- ・前回の委員会では、2段ベッドで8人部屋ではなく、和室で布団の部屋という意見もあった。(齊藤委員)
- ・和室の場合には多目的室としても利用できる。(福島委員)
 - 寝具の片付けの利便性を考えるとベッドが優れる。
 - (佐々木 地域教育推進課長)
- ・障害を持った方も宿泊できる施設が求められるのではないか。(丹治委員)
- ・ユニバーサルデザインとしての観点も必要だろう。(中村委員)
- ・大型バス4台というのは、青少年センター機能としての駐車場を想定しているのか。(長井委員)
 - そのとおり。大型バスは、道路幅を考慮し海岸からの道路アプローチで考えている。(枝並 地域教育推進課長補佐)

- ・自然を生かしたプログラムの施設としてはどのような機能があるのか。（中村委員）
 - シャワー施設は必要と考えている。東側の森からのアプローチ動線があるが、セキュリティが問題を解決しなければならない。
(枝並 地域教育推進課長補佐)
- ・テントが張れるスペースはあるのか。松林の中ではどうか。（福島委員）
 - 敷地内で検討中である。松林では、セキュリティ上むずかしい。
(枝並 地域教育推進課長補佐)
- ・松林でテントを張るのは体験としては冒険的で良い、規制概念にとらわれずに考えてはどうか。（丹治委員）

(3) 今後のスケジュールについて

《資料》旧二葉中学校校舎利活用事業スケジュール（平成27年度） 資料3

： 枝並 素子 （教育委員会地域教育推進課 課長補佐）

- ・スケジュール説明
- ・整備予算はどのようになっているか。（長井委員）
 - 整備予算は28年度で取得し、平成28年度中に工事を開始して、29年度秋には運営開始としたい。

(4) 基本構想の骨子について

《資料》（仮称）国際青少年センター・芸術創造ファクトリー
基本構想・基本計画（骨子案） 資料4

： 枝並 素子 （教育委員会地域教育推進課 課長補佐）

- ・骨子案説明
- ・連携のメリット、目的、独自性等の意見をいただきたい。
(枝並 地域教育推進課長補佐)
- ・施設全体の理念というのは、書きにくい。
それぞれの施設がどう交わるかについて、ご意見をいただきたい。
青少年センターから、芸術創造ファクトリーへの提案もあるかもしれない。
こんなことができるのではないかという、お話をいただければ、ありがたい。
(佐々木 地域教育推進課長)
- ・現状の施設の予約はどのようになっているか（逸見委員）
 - 市内の利用者は6ヶ月前から、市外の利用者は2ヶ月前からとなっている。
(半藤 大畑少年センター 事業担当)
- ・アーティストの招聘に合わせて、少し前にこういう企画を行うので子どもたちを募るといのは可能か。（池主委員）
 - 今日の明日は無理だが、少し前であれば可能かもしれない。（長浜委員）

- ・カレーを宿泊の子どもたちが作る場合は、インド人アーティストを呼ぶというソフトの連携もありではないか。(逸見委員)
- ・総合ディレクターが年間スケジュール等の管理をできれば、相互交流もうまくいく。(丹治委員)
- ・芸術創造ファクトリーで招きたいアーティストが、子どものみが対象ではないプログラムの場合はどうするのか。(長浜委員)
 - 子どもたちがあまり利用しない時期は、作品展示を中心にしたアーティストを呼ぶなど是可以する。(丹治委員)
- ・ディレクターがアーティストを呼ぶというイメージか。(長浜委員)
 - ケースバイケース、職員の話し合いで決めるが、当初はディレクターが進めることになるのではないか。(丹治委員)
- ・アーティストを探してくる方とファシリテーターとしての能力のある方が必要だろう。一人で両方できる方がいれば、それでも良い。(中村委員)

3. 連絡

第4回委員会の日程について： 日程調整表を11月6日までに事務局に提出。

以上